

# 防災かしの木

上尾かしの木特別支援学校  
防災部 防災推進委員会

令和2年3月6日 第5号

本校の防災マニュアルでは、在校中に震度5弱以上の地震が起きた場合、下校時の安全を優先し、児童生徒は学校留め置きとなります。その場合は全児童生徒が「引き取り」になります。

【 意識調査集計より 】

(1) どのタイミングで引き取りに向かわれますか？

- |  |             |
|--|-------------|
| ① 情報を確認後、真っ先に向かう。 . . . . .            | 106 (33.1%) |
| ② 家族の安否を確認し、安全を確保してから向かう。 . . . . .    | 134 (41.9%) |
| ③ ライフライン（交通等）の復旧を待って迎えに向かう。 . . . . .  | 42 (13.1%)  |
| ④ 避難場所を確保し、引き取れる状態になってから向かう。 . . . . . | 28 (8.8%)   |
| ⑤ その他 . . . . .                        | 10 (3.1%)   |

(2) 公共交通機関が停止した場合、ご家族に「帰宅困難」になる可能性がある方はいらっしゃいますか？

- |            |             |             |            |
|------------|-------------|-------------|------------|
| ① いる . . . | 168 (63.2%) | ② いない . . . | 98 (36.8%) |
|------------|-------------|-------------|------------|

(3) 徒歩や自転車で「引き取り」に向かった場合、どのくらいの時間を要すると思われるか？

- |         |             |         |            |
|---------|-------------|---------|------------|
| ① 1～2時間 | 143 (54.6%) | ② 2～3時間 | 55 (21.0%) |
| ③ 3～4時間 | 36 (13.7%)  | ④ 4時間以上 | 28 (10.7%) |

(4) 避難所での生活に備え、体育館（または教室）で寝泊りし、非常食や非常用のトイレで生活するような「体験学習」をPTAと学校で企画した場合、参加の意向はありますか？

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| ① 親子（または家族）で参加  | 103 (42.6%) |
| ② 子どものみ参加       | 35 (14.5%)  |
| ③ 親のみ参加（ボランティア） | 5 (2.1%)    |
| ④ 参加の意向は今のところない | 90 (37.2%)  |
| ⑤ その他           | 9 (3.7%)    |

「帰宅困難」になるご家族がいる割合が6割以上（約9割は父・母）もあり、心配でも引き取りに来られないご家庭が多数あることが今回の調査でも明らかになりました。また、引き取りには来られても安全に帰宅できるのか？ということも深刻な問題です。想定される最悪の事態を考えると、多くの子供たちが、本校で避難生活を送ることが予想され、そのための備えや訓練が、今後の重要な取り組みとなってきます。「防災食」で食事する体験や体育館、教室、テントなどで生活する体験、3日間は自力で生活できる備蓄の拡充など、PTAと連携しながら、可能なことから計画的に取り組みを進めていきたいと考えています。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いします。

## 備蓄等で日頃から工夫されていること<意識調査から抜粋>

### ○非常食・飲料水等の備蓄の工夫

- ・非常食を家の外に保管。備蓄品や水は玄関に置いている。
- ・期限間近の防災食を家族で食べる。消費期限をカレンダーに記入し入れ替えている。
- ・賞味期限がすぐわかるよう付箋をつけて管理している。
- ・非常食が食べられない場合の食品（カップラーメン、パックのごはん等）を備蓄している。
- ・何でも好き嫌いなく食べられるようにする。
- ・子供の好きなものは切らさずストックしている。
- ・炒り玄米を常備。水、火を使わなくてもよいフルーツも多めにストックしている。

### ○防災用品・備蓄品の工夫

- ・子どものお気に入りのおもちゃや本を用意している。
- ・ガラス用の養生テープ。乾電池。オムツの備蓄。懐中電灯。スマホは常時充電している。
- ・ラジオやカセットコンロ・ボンベの準備。反射式のストーブ。
- ・モバイルバッテリー、ソーラー充電器、非常時用の蓄電。
- ・簡易トイレ。便器にセットできるビニール・尿や便を固める薬。
- ・防災備蓄品は家族全員がわかるように管理し、すぐに持ち出せるようにしている。
- ・キャンプ用品をそのまま避難用品にする。レジャーでテントや車中での宿泊経験を積んでいる。
- ・サランラップやキッチンホイル。ろうそくやライターは日頃から用意している。
- ・トイレットペーパーやティッシュは多めに用意している。
- ・一人一人自助バックやリュックを用意している。靴やメガネを入れている。
- ・風呂の残り湯は毎日溜めている。寝室近くに避難用のスリッパを置いておく。
- ・防災用品や日用品、靴などの最低限のものは外に保管している。
- ・車の中に「スリッパ」「くつ」「衣類」、こどもの好きなものを載せている。
- ・薬だけはいつでも持ち出せるようにしている（玄関、車内、車庫など、色々な所に少しずつ分けている）。・ガソリンは毎回早めに入れておく。

### ○その他

- ・近所に知的障害児がいることを伝えてある。同じ障がいをお持ちの親とは多人数でよく話し合っている。
- ・子どもと一緒に近所の公衆電話を確認している。
- ・災害時は家族の待ち合わせ場所を決めている。そこにいなければ優先避難所へ行く。
- ・学校～自宅まで子供と一緒に歩いた。長距離を歩けるよう練習している。
- ・どんな場所で災害にあっても、徒歩で考えて帰宅できるよう、登下校の色々な地点から家までのルートを確認している。
- ・待ち合わせ場所と引き取りの子どもの順番を決めておく。
- ・子どもに、思い通りに行かないことや急な予定変更など、あまり同じ様にこだわる事が少ないようにしている。
- ・ハザードマップの確認。外出時は災害ポーチを持ち歩くようにしている